

バイオコミュニティ関西 （BioCK）



令和5年10月

NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議
公益財団法人都市活力研究所

主な活動実績(令和4年6月～令和5年9月)と今後の方向性①

アクションプラン (1) イノベーションの促進

【実施状況・現状分析】

- 分科会の新規組成
 - ・ 2022年6月時点で17件の分科会を組成済み。左記以降、新たに10件を発足させ、1件を統合させた。その結果、2023年9月時点で26件となり、KPIの21件（2030年）を前倒しで達成した。
- 分科会活動
 - ・ 年1回分科会会議を開催し（2022年8月31日、2023年8月31日）、情報共有と連携促進を行っている。必要に応じ個別の支援活動も行っている。分科会数の増加に伴い全体会議では議論し尽くせないため、テーマ別に議論する場の設定が必要。
 - ・ スタートアップ支援について：スタートアップ分科会では、活動強化のための体制変更と、近く実施するスペシャルトライアルに向けての準備を行った。本トライアルから得られた知見のフィードバックと、国や自治体の他の取組みとの相乗効果発揮が課題。
 - ・ 人材確保について：技術系人材の育成については、バイオ産業人材育成分科会がNEDOとホワイトバイオ分科会の支援を受け育成プログラムを開始した。分析・計測分科会においても育成プログラムを開発中。CXO人材の発掘・育成が今後の課題。
 - ・ バイオファウンドリについて：バイオものづくり関連の4分科会については、近畿経済産業局が中心となって連携が進められ、今後の成長産業とするための基盤づくりが進んでいる。社会実装に向けての支援強化と成功事例の持続的な創出が課題。
 - ・ データ連携・利活用をテーマとするパーソナルデータ分科会、ビッグデータヘルスケア分科会、デジタルバイオヘルス分科会については、相互理解と課題の共有が進み、前者2分科会の統合が成立した。今後は連携の輪を他の分科会にも広げ、国の動きもみながら課題やビジョンを共有し、共通のゴールをめざして一体となって進める必要がある。
- 海外調査
 - ・ デジタルバイオヘルス分科会（国循）のJST共創の場プログラムとして、スタートアップ創出/成長促進支援のための海外調査を実施中。6月にオセアニアを調査し様々な連携協議を進めている。今後ヨーロッパ、イスラエルを調査予定。具体的な連携事業の企画推進が課題。
- 分科会活動の見える化
 - ・ 一般向けの情報発信として、BiocKホームページを活用し、分科会活動の紹介スライドおよび分科会からのお知らせを情報発信している。
 - ・ BiocK内の情報共有として、各分科会から進捗、スケジュール、課題等の報告を受け、活動の見える化を進めている。

【今後の取組方針】

- 分科会の新規組成
 - ・ 件数はKPIを十分達成しているが、今後も社会課題やニーズに合わせて、必要に応じ新規分科会を設置する。
- 分科会活動
 - ・ 十分な討議が可能となるよう、分科会会議のあり方を再検討する。
 - ・ スタートアップ分科会で計画中のスペシャルトライアルを確実に実施し、そこで得られた知見を明確化するとともに、国や自治体の他の取組みとの連携を強化する。
 - ・ CXO人材発掘プログラムのあり方を検討し実現させる。
 - ・ バイオファウンドリについては、近畿経済産業局と連携し、バイオものづくり関連分科会における社会実装および成功事例の創出に向けての活動を強化する。
 - ・ データ連携・利活用をテーマとする分科会については、関西発のデータ連携基盤の開発をめざし、パーソナルデータ分科会を中心に連携の輪をさらに広げる。
- 海外調査
 - ・ オセアニアに続き、ヨーロッパ、イスラエルの調査を完了し、デジタルバイオヘルス分科会へのフィードバックを行うとともに、具体的な事業の企画・提案を行う。
- 分科会活動の見える化
 - ・ BiocKホームページでの情報発信を継続し、国内外にアピールする。
 - ・ 各分科会からの報告システムを継続し、協議のための基礎情報として活用する。

主な活動実績(令和4年6月～令和5年9月)と今後の方向性②

アクションプラン (2) ネットワーク形成促進

【実施状況・現状分析】

国内連携

- 関係団体との連携強化
 - ・ BiocK構成団体である各委員団体とは、年2回の委員会でBiocKの課題や活動計画について討議を行っており、BiocK内の情報共有やネットワーク化はできている。
 - ・ GTBとは月1回、ローカルも含めた内閣府認定バイオコミュニティとは年1回の連携会議を通して意見交換を行っている。今後はより具体的な課題について深く議論することが必要。
 - ・ 京阪神連携会議を1～2カ月に1回開催し、共通の課題について議論を進めている。自治体レベルの連携はかなり進んだので、今後、京阪神一体となった活動の企画が課題。
- 連携機関登録の推進
 - ・ 2023年9月末現在、国内58団体が登録済み。BiocKの活動紹介を行い、趣旨に賛同いただき、登録後はBiocKから各種情報を発信するとともに、連携機関のイベント情報等の広報支援も行っている。今後も登録拡大予定。
- 国内連携事業
 - ・ 近畿バイオインダストリー振興会議が開催してきた「関西バイオビジネスマッチング」の主催にバイオコミュニティ関西を、共催に国のプロジェクトである関西イノベーションイニシアティブ、京阪神スタートアップアカデミア・コアリション、大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアムを加え、京阪神一体となった体制とした。参加団体数の増加および関連団体との連携強化が課題。
 - ・ JBAと近畿バイオインダストリー振興会議が別々に運営していたバイオベンチャーデータベースを統合し、共同運営とした。

海外連携

- 連携機関登録の推進
 - ・ 2023年9月末現在、海外38団体が登録済み。BiocKの活動紹介を行い、趣旨に賛同いただき、登録後はBiocKから各種情報を発信するとともに、連携機関のイベント情報等の広報支援も行っている。今後も登録拡大予定。
- 海外機関とのシンポジウム共同開催
 - ・ 海外機関と共同でシンポジウムを開催しネットワーク強化につなげた。今後も継続予定。
2023年2月27日 日英ヘルスケアシンポジウム
2023年3月27日 日本×英国(スコットランド) バイオフォトンクス先端研究最新情報
2023年4月14日、5月19日 日蘭シンポジウム -再生医療-

【今後の取組方針】

国内連携

- 関係団体との連携強化
 - ・ 年2回の委員会を継続開催する。
 - ・ GTBとは引き続き密に連携する。2023年11月に福岡で開催予定の第2回バイオコミュニティ連携会議では、より具体的な内容の議論を行う。
 - ・ 京阪神連携会議では、成果のアウトプットをめざしてさらに具体的な議論を進める。
- 連携機関登録の推進
 - ・ 未登録の国内関連団体の連携機関登録を進める。
- 国内連携事業
 - ・ 10月から募集を開始する関西バイオビジネスマッチング2023において、参加団体数を増加させるとともに、関連団体との連携強化を行う。
 - ・ JBAと共同運営しているバイオベンチャーデータベースを、ローカルバイオコミュニティを巻き込んで充実させる。

海外連携

- 連携機関登録の推進
 - ・ 未登録の海外関連団体の連携機関登録を進める。
- 海外機関とのシンポジウム共同開催
 - ・ これまで実施したシンポジウムを継続開催するとともに、他の国と日本の強みや特徴を生かした新たなテーマを検討し、シンポジウムの開催を企画する。

主な活動実績(令和4年6月～令和5年9月)と今後の方向性③

アクションプラン (3) 国内外への情報発信

【実施状況・現状分析】

- BiocKホームページを活用した情報発信
 - ・ BiocK基本情報、イベント情報、分科会活動、連携機関情報などを発信
 - ・ 英文ホームページ開設：2022年10月
 - ・ 関連団体のイベント情報：HP掲載、メルマガ発信 年間約120件
 - ・ BiocKおよび各団体からのお知らせ：HP掲載、メルマガ発信 年間約50件
- セミナー開催
 - ・ バイオ戦略トークセミナーを、年2～3回、関西医薬品協会およびLINK-Jとの共催で開催している。その他のセミナーも随時開催。今後も継続予定。テーマの選定が課題。
2022年7月25日 BiocKシンポジウム 再生医療最前線～関西から世界へ～
2023年3月9日 バイオ戦略トークセミナー ルール形成による市場創出（NITEと共催）
2023年8月3日 バイオ戦略トークセミナー オープンイノベーションによる成功の秘訣
- 国際シンポジウムの企画
 - ・ 官民一体となったオールジャパンの取組みとして、国際シンポジウムの開催を企画。2025大阪・関西万博を契機とし、日本のバイオエコノミーを発展させるための大きな一歩とする。
2023年6月に開催日程、プログラムディレクターおよびテクニカルディレクターを決定し、テーマをプラネタリーヘルスとした。10月1日には全国の内閣府認定バイオコミュニティを構成委員とした組織委員会を発足させた。プログラム、海外招聘者、協賛・後援の決定が今後の課題。
 - 国際シンポジウム（案）
テーマ：プラネタリーヘルス
開催形式：国際シンポジウム形式
日程：2025年4月17日（木）、18日（金） 会場は調整中
 - プレイベント（案）
テーマ：プラネタリーヘルス
開催形式：国内シンポジウム形式
日程：2024年4月19日（金）午後
会場：グランフロント大阪

【今後の取組方針】

- BiocKホームページを活用した情報発信
 - ・ 今後も継続して情報発信を行う。
- セミナー開催
 - ・ 今後も年2～3回を目安に、バイオ戦略トークセミナーを継続開催する。バイオ戦略実現のために重要な共通のテーマを選定し、先進的な取組み事例を紹介することにより、セミナー参加者に必要な情報を提供し、バイオエコシステムへの参画を促す。
- 国際シンポジウムの企画
 - ・ 2024年のプレイベント実施までに、2025年のプログラム概要を確定させ、広報に注力していく。
 - ・ 海外招聘登壇者については、関係省庁の協力を得て、海外重要機関への登壇交渉を進め、プレイベントまでに決定する。
 - ・ 協賛・後援については、関係団体へ協力を求め、可能な限りプレイベントまでに決定する。